

ゼロカーボンシティの実現に向けた

ロードマップ策定懇談会（第4回） 要旨

1 会議開催年月日

令和5年12月5日（火）午後1時30分から3時15分

2 会議開催の場所

市役所本庁舎6階 大会議室C

3 出席委員

別紙のとおり

4 会議の進行状況

【開会】

事務局より開会宣言 午後1時30分 開会

【あいさつ】

〈会長より開会あいさつ〉

前回委員の皆さまに示されたロードマップからかなりブラッシュアップされている。本日はぜひとも専門的な目線でお知恵やご意見をいただきたい。

【議事（1）ロードマップ原案について】

〈事務局から、前回懇談会で示したロードマップ案との変更点を説明。〉

○議長から意見・質疑の有無の確認。

〈質疑〉

○（株）ゼロボード 石森委員

・本日の資料は細かな文言の修正はされているか。

○事務局

・すべてはできていない。今後修正する。

○（一社）栃木県バス協会 専務理事 小矢島委員

・専門用語などに係る用語集などは付ける予定があるか。

○事務局

・ある。完成形には付ける予定である。

〈議長から、環境省及び栃木県に、ロードマップ案に関する全般的な意見を要望。〉

○環境省関東地方環境事務所 増田委員（代理：和田放射能汚染対策課長）

・幅広くバランスよく各種施策を取り入れている。

・「再エネをどこまで入れられるか」が重要であるが系統容量の問題もあるので、蓄電池等を絡めた自家消費を進める必要がある。

・様々な主体との連携が重要。家庭、事業者の巻き込みを。環境省では、地域企業や金融機関との連携体制構築に関するモデル事業を実施予定のため、活用についてご検討を。

・中小企業は脱炭素の情報にアクセスできないという課題がある。行政がその部分を進めてもらえればと考えている。

○栃木県気候変動対策課 熊久保委員（代理：福島気候変動対策課 副主幹）

- ・内容や数値目標に具体性が出てきて、その点は評価できる。
- ・一方で、ロードマップとアクションプランとのつながり（アクションプランの進捗によって排出量がどれほど削減されるか等）を整理するとより分かりやすくなる。目標達成に向けても必要。

<議長から、佐野商工会議所及びあそ商工会に、様々な業種に携わる立場として、俯瞰的な目線からロードマップへの意見を要望。>

○佐野商工会議所 産業経済委員会 委員長 井川委員

- ・具体性が出てきて、佐野市らしさも出てきた。
- ・森林・鳥獣被害の話も循環型社会につながっていく。里山再生等の森林整備は佐野らしさにつながる。
- ・循環型社会と農業と食は大いに関連がある。

○佐野市あそ商工会 副会長 大関委員

- ・自身は啓発活動の推進による脱炭素意識の向上が重要と考えている。
- <議長から、東京電力パワーグリッド（株）及び佐野ガス（株）に、基本方針1「エネルギーの地産地消」という観点からロードマップへの意見を要望。>

○東京電力パワーグリッド（株） 栃木南支社 支社長 金子委員

- ・具体化されてきているものの、市民が理解するためにはさらに具体化が必要。
- ・EV 推進やエネルギーの地産地消、マイクログリッドの構築などによって、防災面で強いメリットがあることをもっと盛り込んだ内容にすれば、脱炭素がもっと進むのではないか。

○佐野ガス（株） 取締役常務執行役員 中村委員

- ・燃料転換等により、年間何百 t の削減は実施済み。脱炭素だけでなく BCP 対策も併せてやるべき。
- ・大規模停電が発生したときに太陽光だけでは電力が足りない。そこで都市ガス。都災害時に供給が止まることがない。
- ・地域資源を活用という意味で、既存のガス管を用いた施策もよいのでは。

<議長から、（株）ゼロボードに、基本方針2「脱炭素まちづくりの推進」という観点からロードマップへの意見を要望。>

○（株）ゼロボード 脱炭素支援経営エキスパート 石森委員

- ・アンケート調査の実施などによる評価といった内容で、市民にも分かりやすい形で進捗管理ができる形になっている。
- ・進捗管理については第3者が入って管理すること重要なところ。
- ・アクションプランの行動変容のところの指標で「理解している人」の割合ではなく「実践している人」の割合にした方がよい。
- ・全体的なところで、農業と食量に関するものの記載がない。世界的に注目を浴びている領域のものであるため、取り上げてみた方がよいのではと思う。

<議長から、（一社）栃木県住宅協会に、住宅は、基本方針1「エネルギーの地産地消」と基本方針2「脱炭素まちづくりの推進」の観点から、ロードマップへの意見を要望>

○(一社)栃木県住宅協会 事業推進委員 福田委員

・新築で太陽光発電設備等がある住宅を購入する人の割合は少ないので、リフォームの方に力を入れると良いと思う。

・特にリフォームはハードルが高い。生活にどう影響するか(冬でも暖かい、電気代が安価になる等)など、生活のメリットを押し出しての啓発が効果的。

・全体としては誰しものが携われる内容となっており素晴らしいと思う。

<議長から、(一社)栃木県バス協会及び佐野地区タクシー協会及び(一社)栃木県トラック協会に、基本方針2「脱炭素まちづくりの推進」の特に「交通の脱炭素化」の観点から、ロードマップへの意見を要望>

○(一社)栃木県バス協会 専務理事 小矢島委員

・交通の脱炭素化というと、車両の電動車への転換のみに捉えられがちである。公共交通の利用促進の意味もあるため、公共交通の利用促進等も明記して進めることが望ましいと思われる。

○佐野地区タクシー協会 代表 白井委員

・電動車への転換で脱炭素化は図れるが、コストもかかり現実的かどうかは疑問である。また、電力の供給に際して温室効果ガスを排出していたら意味がない。

・次世代自動車にこだわらず、燃費の良いハイブリッド車も合わせて普及に向けていくことも削減につながると思う。

○(一社)栃木県トラック協会 副会長(佐野支部長) 村田委員

・トラックは軽油で動いているものが多い。排気ガスの削減はかなりされているものの、まだまだ脱炭素の実現は難しい部分がある。

<議長から、一般社団法人 佐野工業団地管理協会及び佐野農業協同組合に、基本方針1「エネルギーの地産地消」と基本方針2「脱炭素まちづくりの推進」の観点から、ロードマップへの意見を要望>

○一般社団法人 佐野工業団地管理協会 総務部会長 市川委員

・商業車のEV化は難しいと思われる。そのため、もっと広く考える必要がある。市レベルでは公共交通機関を使っていく方向を押しの方が良いのではないかと。

・取組をしていない企業はいない。すでに取り組んでいる事業者への支援が効果的と思われる。

・脱炭素に関する行動を勉強・学ぶことできる機会などの提供が重要。一般市民の協力がどれほど得られるかが鍵となる。

○佐野農業協同組合 金井委員

・純粋な農地を残すのが農協の役目である。ソーラーシェアリングはやはり難しい。

・農業機械の有効利用(シェアリング)は脱炭素にも農業にも良い取り組みだと思う。

・運搬用具の統一化による、輸送時の排出削減策に取り組んでいる。

・農産物の地産地消という観点から、脱炭素に関する取組を推し進めていきたい。

<議長から、消費生活リーダー連絡協議会に、基本方針3「循環型社会の形成」の特に「食品ロスの削減」の観点から、ロードマップへの意見を要望>

○消費生活リーダー連絡協議会佐野支部会長 石澤委員（副会長）

- ・食料自給率は38パーセントなのにも関わらず大量の食品ロスが生じている。
- ・食ロス問題は、我々が最も身近な問題として、取り組みやすいものである。
- ・市民・市・農業など、いろいろな主体とのつながりを持つ機会が重要
- ・ぜひ当会を活用して普及啓発していただきたい。そちらに協力していきたい。

〈議長から、みかも森林組合に、基本方針4「森林の再生・活用」の観点から、ロードマップへの意見を要望〉

○みかも森林組合 理事 相子委員

- ・森林整備で使用する機械の電動化が進んでいない。
- ・森林整備について、まずは林業従事者を増やしていくことが肝要。
- ・自伐型林業を推進し、夏は農業、冬は林業、といった取組をされている林家や農家に市が支援するなどはいかがか。

〈議長から、(株)下野新聞社及び佐野ケーブルテレビ(株)及び公募委員に、基本方針5「脱炭素意識の向上」の観点から、ロードマップへの意見を要望〉

○(株)下野新聞社 佐野支局 支局長 久保委員

- ・若い世代、学生の教育が非常に取り組みやすいところ。きちんと意識を持ってもらうことが重要であり、これから取り組んでいかななくてはならないところ。
- ・(脱炭素に関する行動が)コストと捉えられると難しくなる。視点を脱炭素化によるメリットに移さなければ、行動してもらうのは厳しい。支援メニュー等をしっかり提示し、コスト負担感を減らし、メリットに視線を写させるべき。

○佐野ケーブルテレビ(株)執行役員業務部長 田所委員

- ・素晴らしいロードマップができて、市民の理解がないと意味がない。積極的に取組を行っている企業・町会・団体等を当番組で取り上げていくのが必要。
- ・子供たちが学ぶ場が多く必要。

○公募委員 初山委員

- ・ひとりあたり排出量等に触れてはいかがか。
- ・脱炭素による地域内経済循環の活性化について、賛成である。
- ・森林の再生・活用については、市全体が真っ先に取り組むべきである。まずは道路沿いなど身近な木を整備するところから始めてはいかがか。
- ・森林の活用サイクルがバランスよくなってほしい。

○公募委員 丸山委員

- ・LEDの導入の割合が32.9%で低いと感じた。
- ・ごみ排出量が横ばいなのは、分別が厳しかったのが緩くなってきて、エコバックを使用している人が少なくなっている。意識不足を感じるため、呼びかけが必要。
- ・市民に呼び掛けるときは、もっと分かりやすい言葉で呼びかけていただきたい。
- ・市民ボランティアの積極的な活用を。
- ・市だけではなく、市民・事業者を巻き込んだ取組を。持続可能な脱炭素に関する取組を行っていくためには、委員の方の多くが仰っていたが、教育が非常に重要であると思う。

【議事（２）今後のスケジュール（案）について】

- 事務局より、今後のスケジュール（案）について説明。
- 議長から意見・質疑の有無の確認。
- 佐野商工会議所 産業経済委員会 委員長 井川委員
 - ・取組が多岐にわたり面白いが、太陽光に偏っている。
 - ・太陽光の設置についで、場所を考えるだけでも良いと思う。山林・農地が太陽光で減るのでは、本末転倒。
 - ・佐野らしさを出す意味では、場所の考慮は必要だと思う。
 - ・自分が脱炭素に関する活動に「参加」していると実感できると良い。（遊び心があると！）
- 事務局が補足説明
 - ・改正温対法に基づく促進区域制度がある。佐野市もこれを活用し、促進していく区域、抑制する区域をはっきりさせていきたい。

【その他について】

- 事務局より、アクションプランの策定予定時期や委員へのロードマップの配布予定などを説明。
- 議長から意見・質疑の有無の確認。意見特になし。

【閉会】

- 市民生活部長より、委員への謝辞。
- 事務局より閉会宣言 午後３時１５分 閉会